

### 指導者養成と教育相談 —大阪YMCA国際専門学校— 総合教育センター開設

7月1日(火)、大阪YMCA国際専門学校、表現・コミュニケーション学科内に新しいセクションである「総合教育センター」(所長 神田 隆人、以下「センター」)が立ち上がりました。センターでは、多様なニーズを持つ青少年たちのエンパワメント(内なる力を引き出す)に貢献することを目的にして、運営を展開していく予定です。発達障がい児・生徒の学習支援や仲間作りに取り組んできたサポータークラス(1996年開設)、多様な不登校経験を持つ生徒たちの生きる力を育む表現・コミュニケーション学科(2005年開校)の

象ごとにアプローチするソーシャルワークの手法を取り入れ、相談者の将来設計を視野に入れた具体的な対応のメニューを提示することに特色があります。また、将来的には相談活動を通じて医療・福祉・心理・教育の領域を越えたネットワークを各機関と結びながら、総合的教育支援の人・情報・社会資源が集う居場所としての役割を果たすことにチャレンジしていきたいと思っております。

歩み始めたばかりの若い部署ですが、大阪YMCAの一翼を担う新しいセンターにしたいと思っております。ご理解とご支援をよろしくお願いします。(梁 颯一・表現・コミュニケーション学科スタッフ)

総合教育センター  
TEL 06(6441)0988

### 国際リレーエッセイ②



～台湾より～  
菅 秀晃さん

#### 台湾屋台

大阪から飛行機で3時間の距離にある台湾。距離にしても、さほど遠くない国であるが食文化は日本とは大きく違う。台湾の食文化に大きな影響を与えているのは、人々に手軽に食べられる屋台の料理である。夜市場の屋台には、多くの家族



が食事を楽しむ姿が見られる。その楽しみ方はそれぞれである。屋台のまわりには簡単なテーブルを利用したり、スプ系以外は食べ歩きが多かったり。また、家に持ち帰り用として屋台を利用することは、日本より遥かに多い。

台湾は、外食文化中心の生活であると感じる。それだけあって、屋台は台湾の伝統的な食事からアジアの国々の食事まで、豊富な品が人々を飽きさせない。日本のすしも屋台で売られているほどである。また、日本の外食と違い、フランチャイズ化していないので、それぞれの屋台が家庭の味だ。面白いのは、それぞれの屋台の味があるので、同じ料理を食べに行くにしても、店を決めるのに仲間同士での話し合いは時間を取ることが多い。それほど、豊富な味が屋台にあるのだ。台湾人は、食事をした



ら、デザートは刨冰(かき氷)に限るらしい。日本のかき氷と違い、氷の上に山盛りのフルーツをトッピングする。刨冰は店によつて多少違いはあるが、フルーツの品数と新鮮さには、日本人を驚かせる。南国の地域だけあって、フルーツは安価でとても美味しい。ちなみにマン

ゴ1刨冰一皿の相場の値段は、日本円で300円程度である。台湾の屋台に通つて5カ月、家族の食事について、日本の新聞なのでよく取り上げられていることを思い出す。楽しく家族と過ごす時間。場所はどこであれ、取り分け、食事の時間は大切である。も台湾の多くの家族が屋台を楽しむ。

◆筆者紹介◆  
菅 秀晃さん  
大阪YMCAスタッフ  
現在、台湾・台北YMCAに赴向中。

### “地域の中で福祉社会への試み” —北YMCA— 障がい者・児ボウリング大会

「普段、スポーツを楽しむ機会が少ない障がいのある方々にスポーツを楽しむ機会を提供する」、「障がいのある方とない方のふれあいの場とし、共にノーマライゼーションを推進し、互いに過ごしやすい社会の実現のための機会とした」。

社会情勢や制度改革など障がい者の方々を取り巻く環境が刻々と変化する中で、このような想いを形とし、11回目となる障がい者・児ボウリング大会が7月21日(月・祝)に開催されました。定員35名に対し50名を超える参加申込があり、中には案内する前から事務所に問合せをされる方もおられました。当日は参加者とボランティアが共に楽しみ、一体感のある様子を見ることができ、心配そうに眺められていた保護者の方の表情が次第に和らいでいきました。

ボウリング大会を始めて11年、願いの実現のため多くの方が試行錯誤しながら実施してきました。その試行錯誤と継続が今のボウリング大会の和らいだ安心できる雰囲気を生み出しています。「ここにYMCAがある」このような安心感を、多くの方々と共に継続し、お互いが過ごしやすい社会の実現に向けてこれからも歩み続けたいと願います。(津田晃男・北YMCAスタッフ)



### 北京オリンピック出場のイギリス・コスタリカスイミングチーム みなとYMCAで直前合宿



プレゼントされた英選手のサイン入りペナント

北京オリンピックに出場するイギリス代表水泳チームの選手21名、コーチ、トレーナー17名、また、コスタリカの代表選手2名、コーチ1名が、7月23日～28日、みなとYMCAで直前合宿を行いました。イギリス選手の中には、イギリスで初めて世界新記録を出したリアム・タンコックさん、今回の北京オリンピックの女子800M、400M自由形で、世界新を記録し、金メダルを獲得したレベッカ・アドリントンさんも参加していました。プールでは、間近でオリンピック選手の迫力ある泳ぎを見ることができました。みなとYMCAでは、今後もこのようなふれあいを通し、会員の皆様がより楽しくウエルネスライフをおくれるように考えています。(有井麻衣子・みなとYMCAスタッフ)

### “地域のネットワーク” —南YMCA— キリスト教オープンセミナー報告



「キリスト教オープンセミナー」が8月6日(水)に南YMCAで行われました。講師に安積力也さん(基督教立学園高等学校長)を迎え、「今、キリスト教教育に問われているもの」「待てない時代」の只中で、「というテーマでお話いただきました。著書の岩波ブックレットNo.715「教育の力」を中心に、できるだけ早く目に見える結果を求めてしまう「待つ能力」を失った多くの大人たちなど、子どもたちの深刻な心の状況に触れつつ、キリスト教主義の中高一貫校や日本警話学校の現場での経験を織り込みながら、「待つ」教育の大切さについて、キリスト教教育の視点から熱く語っていただきました。教育関係者や教職者を含む62名という多くのご参加をいただき、実り多い学びの時を得る事ができ感謝いたします。(頁) 谷子・南YMCAキリスト教委員